審議会等会議録

審議会等の名称	第3回多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議
開催日時	令和3年10月7日(木曜日)17:00～19:00
開催場所	セントコア山口　2階　サファイア
公開・部分公開の区分	公開
出席者	山口県立大学社会福祉学部社会福祉学科　准教授　廣田智子 山口商工会議所　専務理事　大田正之 大正大学社会共生学部公共政策学科　教授　村橋克則　(リモート出席) 一般財団法人山口観光コンベンション協会　事務局長　田中光敏 山口大学大学院創成科学研究科　教授　鵤心治　(5名・敬称略)
欠席者	無し
事務局	総合政策部 　田中総合政策部長、山田総合政策部次長 スマートシティ推進室 　宮原室長　他5名 光井純アンドアソシエーツ大建設計共同体 　光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所　光井純代表取締役 　同社西日本岩国オフィス　原一樹所長 　株式会社大建設計　広島事務所　沖中資康設計室長 オブザーバー 　都市整備部都市計画課　清水課長 　都市整備部建築課　山本課長
次第	1　開会 2　会長挨拶 3　議事 (1)多世代交流・健康増進拠点施設【(仮称)湯田温泉パーク】について 　・前回の意見整理等 　・湯田温泉のまちづくり 　・多世代交流・健康増進拠点施設【(仮称)湯田温泉パーク】整備 (2)　意見交換 4　今後の日程 　第4回会議の日程について 5　閉会
内容	次第に基づき以下のとおり進められた。 1　開会 (省略)

	2　会長あいさつ 【鵜会長】第2回目の会議では、ゾーニング案を7案から3案に絞り、御了解をいただいているところです。さらに、前回議論をさせていただき、いただいた御意見、提案等を踏まえ、配置ゾーニングC案、それと周辺のまちづくり、施設の活用事例等について今日は事務局から原案を説明していただき、協議を進めてまいりたいと考えております。今日は、施設の整備予定敷地周辺の模型と施設の模型をかなり詳しく準備をしていただいていますので、これらを踏まえて、皆さんと議論して、進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。今回も、基本設計の受託事業者である光井純アンドアソシエーツ大建設計共同体から光井様、原様、沖中様に御参加をいただいております。そして、山口市の方からも都市計画課清水課長、建築課の山本課長の2名にも御出席をいただいています。事務局であるスマートシティ推進室も含めまして、皆さんで議事を進めてまいりたいので、よろしくお願いいたします。 3　議事 【鵜会長】それでは、最初の議題に入ります。事務局から説明をお願いします。 (1)多世代交流・健康増進拠点施設【(仮称)湯田温泉パーク】について 【事務局】資料1～2について説明 【鵜会長】一旦、換気及び休憩とします。 (2)意見交換 【鵜会長】再開します。 ここからは、事務局から説明があった内容について、まず質問や意見をいただき、ディスカッションをした後、模型の周囲にまた、前回と同様に集まって、さらに議論を深めていきたいと思いますので、御協力をお願いいたします。まずは、皆さんに確認していただきたいのは、前回配置案を3案まで絞って、今回事務局の方で1案、具体的にはC(雁行)案というところをベースに案を示していただきました。この辺りで、何か意見があれば、お願いしたいと思います。 【A委員】前回の専門会議から、関係団体などに色々話を伺ってきまして、そうした中で、施設の日常的な利用を含めた施設の利用方法について、大変充実したものになっていると思います。交流人口の増加など、かなり充実してきたものになってきておりますので、大変ありがたいというような言葉も数多く伺っております。先ほど御提案があった、9ページのプランニング案について、駐車場と建物の間にちょっと空白があるので、土地利用としてもったいないと感じています。また、地域の要望として、地域の目玉となる商品を作っていきたいという希望を持っておられまして、こうした中で、多目的スペースは大きいイベントの舞台になるところで、多目的スペース、もしくは文化体験スペース

	あたりで、出来れば防音や音響をきっちりして、150人程度の収容人員を確保してほしいといった意見も伺っています。それから、温泉について、家族風呂は、体が不自由な人に対応したものと聞いていますが、大変ありがたいです。旅館さんも、障がい者の方や、足腰の不自由な方の入浴に大変苦労しています。こうしたことから、出来れば貸切風呂が2つくらいあってもよいのではないかという意見もあります。それから、休憩室がありますが、出来れば、現状の寿泉荘と同じ形で、温浴施設の方にあった方が、温泉を利用される方もいいのではないかと思いますが、その辺はいかがでしょうか。それと、以前から申しておりますが、温泉の浴槽は現状維持でお願いしたいというのが地域の御意向でした。それについて御検討をお願いしたいと思います。 【鵜会長】いくつか御意見がありましたが、A委員からは充実した計画内容であることを踏まえまして、このC案ついては、了解いただけたということで理解してよろしいでしょうか。 【A委員】はい。 【鵜会長】その他にいくつかありましたが、駐車場と建築の間のスペースが少し気になったこととか、多目的スペースが150人程度の収容が必要だということ、家族風呂、貸切風呂の事ですかね、それを足腰が弱い方がおられるので、1つから2つにならないかということと、休憩室についてももう少し温泉側に一体的な計画にならないかということだと思います。浴槽等については現状維持を原則にしてほしい、そういうことなのですが、事務局、回答いただけますでしょうか。 【事務局（設計）】施設とそれから駐車場の間、三角形の所ですが、まだランドスケープをしっかり描けておりませんが、実際には、そこは植栽とか、高木とかそういったものを植えて、多目的室から直接、車が見えないように、配慮することになります。駐車場を出入りする車が、あまり見えすぎるとよくないと思っていますので、この辺りについては、今後、ランドスケープデザインによって、豊かな都市空間を作っていきますので、御期待ください。それから、多目的スペースは、一室として使うときには180人はいりますので、御要望には応えられる数字になっているのではないかと思います。 貸切風呂の数については事務局と協議しながら、コスト面も踏まえ、詰めていきます。それから休憩室の位置について、温浴施設側に配置するという考え方もあると思います。こちらから現在お示ししている案の意図としては、大屋根広場の部分で、多目的スペースで行われるイベントや、文化体験スペースでのギャラリー、そういったものを加えてまた別の賑わい的な要素を加えてはどうかというようなことで、あえて休憩室を少し大屋根広場側に張り出してきたというような意図でこちらの位置にした計画です。色々な可能性があるかと思いますので、そちらもプランを調整していく中で検討していきたいと思っております。

	【鵜会長】ありがとうございます。休憩室の位置は多目的スペース、大屋根広場でのイベントの参加であるとか、見る座席であるとか、そういったことを意識して若干、風呂場から離したような位置になっているということですが、よろしいでしょうか、何かコメントありますか。 【A委員】多目的スペースの大屋根広場側の防音の確保、100％は難しいでしょうけど、ある程度、音響設備もここに設置しつつ、防音についても配慮いただきたいのですが。 【事務局（設計）】遮音はパーティションが必要になってきます。その場合には、遮音性能を見極めながら、コストのことも考え、完全に遮音してしまうのか、多少はしょうがないとするのか、その辺りをこれから検討します。パーティションの壁によって、Nc値、遮音性能を30dB、40dBにするのかなど、検討したいと思います。 【鵜会長】今後はコスト面も考慮しながら、遮音性能については検討する予定であるということでよろしいでしょうか。 その他ありますでしょうか。 【B委員】日常的な利用とにぎわいの創出のための仕掛けづくりというので、具体的なイメージが示されており、利用したくなるようなイメージがすごくわいてきました。2点ほど意見があります。バリアフリーの使い勝手に配慮したトイレとか授乳室を計画するとのことですが、子どもを連れて外で足湯や、温泉の川とかで遊んだ後にそのまま手を洗ったり、足を洗ったり、遊んでいる途中にトイレに行きたくなったりとかを考えたとき、トイレとか手洗いとか、外からアクセスしやすいものはどうなっているのでしょうか、というのが一点です。もう一点は、多くの世代で子どもを連れて、お父さんお母さん、あるいは、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に家族で温泉に来るということもイメージできるのですが、そうなると貸切風呂を借りるほどではないけれども、浴槽で足がやや不自由な人と家族が一緒に入る、子どもも一緒に入ることがやりやすい、魅力的な施設になっていると思います。そうすると、ある程度の広さがないと利用しづらい、あるいは利用したいと思えない、思いづらい状況になるのかと思うのですが、その辺りの配慮についてお伺いできますか。 【鵜会長】事務局、いかがでしょうか。外部空間からの水回りの使い勝手がどうなっているかということと、2点目はお風呂について、貸切風呂等の広さ、使い勝手を含めた適正な広さになっているかという御指摘だと思うのですが、よろしくお願いいたします。 【事務局（設計）】一点目については、外からのトイレ、足洗い、手洗いの使用につきましては御意見をいただいておりましたので、本日お出ししているプランでは十分でない部

	分もありますが、今後、外から直接アクセスできるトイレ、手洗い、足洗いといった場を設置していくように調整しているところです。 【事務局】2点目の御質問、入浴施設の規模、建物の規模は現状維持ですが、ある程度浴槽の広さがないと、バリアフリー、あるいは複数人数での入浴に適さないのではないかというようなあたり、そういった課題は認識しておりまして、御意見をいただきながら、そして市でユニバーサルデザインの検討会を立ち上げておりますので、委員の御意見、検討会の御意見も踏まえながら適切な広さというのを改めて、検討させていただこうと思います。 【鵜会長】その他皆さんの方からいかがでしょうか。 【C委員】私の方から2点、質問をさせていただきます。まずは、非常に機能的に提案いただいてありがとうございます。その中で、まずは1点確認ですが、大屋根広場は、最終的にレセプション等、何名程度、立食等で入ることが可能か、お伺いしたいのと、それから、温泉地ということで、温泉熱を活用した御提案、素晴らしいなと思っております。ただもし、コストによっては太陽光を活用した方がいいのではないかと思っております。そこのところを御意見がいただけたらと思います。 【鵜会長】ありがとうございます。2点、大屋根広場を最大どの程度の人数で使えるのかということと、温泉熱の活用だけでなく、太陽光の活用も考えてみてはどうかということです。 【事務局（設計）】大屋根広場の規模は、29ページの下の図を見ていただきますと、こちらが最大限利用者が入った絵となっております。こちらが1，000人くらいの人が入っておりますので、これくらいが最大で出来るイベントのスケール、サイズかなと思います。また、アフターコンベンションみたいなパーティー形式ですと、右上の形で、ずいぶん広さも確保して、昨今の感染症対策といったご時世もありますので、こういった適正な距離をとって、しっかりゆとりを持ったパーティーを開けるような規模となっております。面積の方をお伝えし忘れていたのですが、多目的スペースは除いて、大体1，000㎡近くあるということになっております。太陽光発電についてですが、太陽光発電は今の時代で考えますと、設置は必須条件に近いと認識しております。ただやみくもにつければよいというわけでなく、かなりコストもかかりますので、より効果的にコストパフォーマンスをできるだけ高く発揮できるような形で設置するように、今後検討してまいります。 【鵜会長】ありがとうございます。29 ページ右側のアフターコンベンションで、立食、レセプションといった表現をされていましたが、こういう立食形式の形態で大体どれくらい入ると考えていますか。

	【事務局（設計）】大体、着席で使うと 2.5 ㎡くらい、1,000 ㎡くらいですと大体 400 人程度が入れると考えています。 【鵜会長】それではC委員について、C案をベースとして検討を進めていいんじゃないかという御意見ということで理解してよろしいでしょうか。 【C委員】はい。 【鵜会長】ありがとうございます。先程、確認しておりませんでしたが、B委員についてもC案をベースで検討するということでよろしいでしょうか。 【B委員】はい。 【鵜会長】それでは、続いてD委員、何かコメントありますでしょうか。 【D委員】配置に関しましては、これまでの会議の中での要望とかコンセプトに合っておりますので、後はプロの方にお任せするのでよろしいのではないかと思っています。完成後の活用イメージについて、色々御提案をいただき、それについては、大変理解をしているのですが、今マーケティングの世界で言うとプロセスエコノミーみたいな、完成する前の作っている段階のプロセスにユーザーを参加させる、そこにエコノミックな価値を出していこうということがある意味、当たり前になってきていますが、今回の件は最終的に市民の活用ということを考えると市民が愛着を持つということが大事だと思いますので、例えばそういう、この施設を作り上げていくプロセスにどうやって市民を巻き込んでいくかみたいなことも一つ大事な観点ではないかなと思いながら聞いておりました。一番ベタなところで言うと名称の公募とか、それからスペースによっては、市民参加でタイル貼りとかもあるかもしれないですし、壁画とかもあるかもしれないですけれども、そういった形で、作っていくプロセスに市民を参加させるということが大事なのじゃないかと思いました。私からは以上です。 【鵜会長】市民の皆さんの意見なり、参加なり、作り上げていくプロセスにどう関わっていただくかという御指摘だと思うのですが、事務局よろしくお願いいたします。 【事務局】市民参加のプロセスといったところで、今まで施設運営者となりうるようなサウンディングということに注力していますが、基本設計の進捗に応じて、名称の公募ですとか、市民参加の手法なんかも検討を始めたいと思っておりますので、整理し次第、随時、御報告させていただければと思います。

	【鵜会長】今、D委員から御指摘いただいた名称の公募であるとか、壁画のために一部、壁を提供する、そういったことも考えられるだろうし、また、まだ具体的なデザインが出ていないのですが、シンボルの部分、そういったところが大いに市民が参加しながら検討できるような部分だと思いますので、是非、検討を進めていただきたいと思いますが、D委員、そういうことでよろしいでしょうか。 【D委員】結構です。 【鵜会長】D委員についても、このC案をベースに作業してよろしいのではないかという御意見と理解してよろしいでしょうか。 【D委員】はい。 【鵜会長】はい、ありがとうございました。一通り皆さんから御意見をいただきましたが、私から1点だけ。大屋根広場の可動間仕切りは、日頃はどうなっていますか。開けているのが普通なのか、閉めているのが普通なのかということと、もう一つは、開けている場合に、風の影響を受けるのではないかと気になっていまして、音はもちろんなのですが、風の吹き上げとかですね、大学も結構ビル風があったりするのですが、風の通り道になっているのではないかというのが気になるのですが、その辺なにかコメントがあったら教えていただきたいです。 【事務局（設計）】可動間仕切りの両方を開けると、仰られるように、季節によっては、風の抜ける道になっています。一方で、開口部を調整することによって、今屋根を色々と検討しているのですが、屋根からも通風できるようにということを考えると、コロナの事もありますが、風通しの良い、気持ちの良い空間になっていますので、その辺りについては、それぞれの季節の状況を考えながら、電動で稼動させるということができるのではないかと思います。完全に全部オープンにしてしまうということもあるでしょうし、それから 50％開口にするとか、いろいろな形がありますので、その辺りについては、この大屋根広場を快適な場所にするために、どういった気候状況の時にどういう開け方がよいのか、これから研究していきたいと考えています。 【鵜会長】そうですね、管理上の問題もあると思いますし、気候の問題もあるだろうし、後は風、暴風の問題もあるだろうし、そういった条件をシミュレーションしながらやらないと、形、デザインにも影響を与える要因だと思いますので、検討いただければと思います。 今日せっかくこれだけの模型が準備されています。前回のように模型周辺に集まっていただきまして、少しざっくばらんに意見を言っていただければと思います。周辺の湯田のまちづくりの観点では、こちらの模型を見ると非常によくわかると思いますので、コメン

	トをいただければと思います。 【A委員】県道204号から南側は狐の足あとが整備されたりと、だいぶ賑やかに整備されています。204号から北側は、なかなか、伸びていかないというか、集客がまだ進んでないと感じます。そういった意味で、204号とこの新しい（仮称）湯田温泉パーク、これをいかに結び付けていくかということが、この整備に関わってくるのではないかと、その辺について若干説明がありましたが、何かもっと詳しい説明があればお願いします。 【鵜会長】事務局、先ほど、A4の資料の方で説明がありましたが、少しこの模型を使って説明をしていただけますか。 【事務局】観光地といえるゾーンの外周道路に当たる施設ですので、外周道路沿いに例えば車を置いて、ゾーンの中をいかに回遊していただくかということを考えますと、この施設から錦川通り、204号に抜ける動線、ラダー型の動線を作るのが非常に重要になってきます。そうした意味ではこの辺りは民有地が中心となっておりまして、今回お示している市道上東湯田温泉五丁目線と錦川通りを結ぶ路地の整備イメージ図は、ある程度想像の中で描いており、奥に施設が見えていますが、こうした縦筋の路地をしっかり歩行空間として整備していく必要性というのは意識していますので、また地元の方と調整をしていきたいと思っています。 【鵜会長】今回の施設が滞留させるためだけの施設ではなくて、湯田のそぞろ歩くというキーワードがありましたが、回遊するということを目的に、周辺までを含めた再生をコンセプトにしているというような考え方でしょうか。その他皆さんから何かありますか。設計事務所の方から何か補足の説明があれば、説明なり、特徴なり、かなりデザインコンセプトで説明があったと思うのですが、今のところ、かなり色々なことを考えてこの形になっているということなのですね。角度が45度にふってあるとか、雁行しているとか、そういったことが全部ここにきて、視認性であったり、交流センターの関係であったり、色々考えてこの形になっているということが説明されましたが、そこについて何かコメントがあればお願いします。 【事務局（設計）】先生が非常にうまく、説明していただいたのですが、この施設の北側には交流センターがあります。今回の施設を使って、交流センターへ上手くつないでいく、それから先ほど御指摘がありましたように、こちらの方からさらに狐の足あとの方につないでいって、街のネットワークを作るということがとても大事です。そういった意味で今回の施設は回遊性ということを非常に大事にしているのですが、ぐるりと回ってまた元の場所に戻ってくる、それからまち全体が回遊できるということで、本当にそぞろ歩きをして楽しい温泉のまちができてくるという風に思っています。そういう意味で、この大きな広場がそぞろ歩きの拠点になって、皆さんがここに来ると、湯田の市民がいろい

	ろなことをやっているとか、そういったことを見ることが観光の源になりますので、そういった場所になってほしいなと思います。先ほど、御指摘いただきました、風が抜けて、屋根から風が出て、風を上手く使うことで、環境に配慮していくということもありますし、それからくぼんだ所がたくさんあります。先ほど御指摘がありましたように、三角形の場所が残ったりしていますので、この辺りはしっかりランドスケープを埋め込むことで、緑の拠点になる、森の中の温泉のまち、あるいは広場ということになっていってほしいなと思っています。屋根の形については、これからということなのですが、広場を中心にして、大きな民家の内側のような、中心性のある空間を作って、中で様々なイベントをするときにみんなの広場ということがちゃんと伝わるような、そんなものに出来たらいいんじゃないかと思います。 【鵜会長】ありがとうございます。今の御説明を聞いて、何かコメントがありますか。 今見た感じ、植栽は、模型上はあまり設置されてないのですが。 【事務局（設計）】出来れば、この周りにも色々な山などありますので、この地域の自生の樹木を持ってくることで、メンテナンスを非常に少なくし、地域の鳥とか虫も飛んできますので、そういった意味で、生物多様性に貢献するような、拠点ができるととってもいいのではないかと思います。 【A委員】バリアフリーの観点から、例えば階段を車いすで登れるようにはできないですか。 【鵜会長】少し近い指摘もあったと思うのですが。その辺りどうですか。 【事務局（設計）】エレベーターを1基用意している状況です。スロープを設けようとすると、階高が 4mから 4.5mくらいまでありますので、車いすだと、大体 60mくらい上っていかないといけないことになるので、なかなか現実的でないということで、基本的に2階へのアクセスについては、エレベーターを中心にした方が、逆に楽なのではないかと考えています。 【鵜会長】今エレベーターは1基ですか。 【事務局（設計）】はい、そうです。 【A委員】せっかくの階段の良さを車イスの方にも満喫してもらいたいという気持ちにもなりまして。 【事務局（設計）】日本のバリアフリー法で、15分の1とか、かなりゆったりしたスロープで

	ないと設置が難しいので、その辺は結果的に、おそらく難しいだろうと思います。実際には、上がれるリフトを作るとか、出来るだけ、配慮した形の計画にはしていきます。スロープを設置すると、70m とかになってしまうので、スロープだけですごい印象になると思います。 【鵜会長】原則的には今、エレベーターで2階へ上がっていただくことになっているんですね。バリアフリーもそうですが、2階のデッキ部分が、周りを囲むような形になっていますが、先ほどのイベントとか、バーベキューもそうなのですが、ここの適正面積というのは、いかがでしょうか。果たして、通路をとって、そこでバーベキューができるかとか、寸法については、今後検討されますか。これだけみると、一般の通路に見えるのですけれど、ここでアクティビティを想定されるということになると、スペースが厳しいのかなと感じます。 【事務局（設計）】また、少し参考例を集めてみたいと思います。 大体10mくらいはあるということで、上は透明ガラスになっていますので、歩きながら中のイベントをどこからでも見るということはすごく大事なところです。それから、シンボルタワーということがありましたが、だいたい位置としたらこの辺りにすると、眺望がいいのではないかという考えです。 【鵜会長】北側部分のデッキについて、秋から冬にかけての活用もある程度想定すべきではないかと考えます。 【B委員】バリアフリーの関係で、温泉のことをお聞きしてみたいのですが、駐車場から温浴施設に、雨の日などは車いすの方が来られたり、あるいはベビーカーを押して来られたりしたときに、どういった動線になりますか。 【事務局（設計）】まず、車寄せをもうけていますので、そちらに降りていただくと、すぐ風除室がありますので、雨にぬれずに、大屋根広場にアクセスできる状況になっています。後は他の皆さんと同じように通常の動線というかたちになってしまうのですが、確かに車いすといったことを考慮しますと、専用のアクセス通路というのはあってもいいのかなという気がします。 御指摘のように車いすで来館された方はどうするか、それから2階のデッキ利用でバーベキューをするときはどうなるか、その辺りを寸法を押さえながらシミュレーションをしてみます。 【鵜会長】北側に交流センターがあるので、こちらとの関係もいろいろシミュレーションできそうな気がしますね。

	【C委員】大屋根広場の地面は、これは合成樹脂か何かを敷くようなイメージですか。 【事務局（設計）】まだ、最終的に決定はしていませんが、子どもが走り回って、転んでも、擦り傷、けがをしない、それからいろんなスポーツをする可能性もありますので、その時にある程度のスポーツに対応できる、そういったことで、材料を探していく必要があると思います。 先ほど、温泉熱利用の所でご説明をさせていただいたのですが、床暖房といったこともありますので、そこもひとつポイントになってくると思っています。スポーツへの対応については、仮設で敷くことで対応できるといったこともありますので、今後コストとのバランスを見ながら、決めていきたいと思っています。 【鵜会長】関連するかもしれませんが、材料の選定というのは、実施設計で決まっていくと思いますが、今回の報告の中で地場の木材の話が強調されていて、構造をRCにするか、鉄骨にするか、木にするか、そういうところやコストとの関係もありますが、ぜひ地元の木で、狐の足あとのような木の上手な活用の仕方、そういったことを、今の段階でどう考えられるのか、アイデアというか、イメージあればちょっとお話しを聞かせていただければと思います。 【事務局（設計）】木材を使う時、不燃性ということが要求されますので、そういったことを考えながら、色々な方法を考えていくのですが、基本的には2階から4mまでは不燃材料で作る必要があります。そうすると鉄骨とか、そういったものになっていくだろうと思いますが、天井の仕上げだとか、一部木質化といいますが、鉄骨の両側に木パネルをはる、そういったことで、内側から見たときは木質の雰囲気にできたらいいなと思っています。地元の材料がどんなものがあるか、それから生産量、どのくらい支給できるのか、研究しながら選んでみたいと思います。 【鵜会長】本日、いろいろなアクティビティの写真が報告されていますが、子どもとか、高齢者とか、家族のシーンというのは、やはり柔らかい風合い、空間のイメージです。それはやはり木というのがふさわしい、なじみやすいと思います。是非、その辺を検討いただければと思いますので、よろしくお願いします。 【事務局（設計）】特に、大階段とか、天井とか、出来るだけ木質のものにしていきたいと思います。 【鵜会長】その他何かありますか。よろしいでしょうか。様々な御意見、色々なコンセプトに関わることなどありましたが、復唱はしませんので、事務局の方で整理して次回までに対応していただきたいと思います。私の方で確認したいのは、まず、A4の資料で、12ページにある活用のコンセプトが、アソビバ、マナビバ、タマリバという考え方で進めて

	いくことと、15 ページのC案をベースに作業を進めていくことで、皆さん、御了解を得たということでよろしいでしょうか。 【A～D委員】（異議なし） 【鵜会長】はい、ありがとうございます。それでは、Cの雁行案に基づきまして、作業を進めていくということにさせていただきたいと思います。それでは、意見交換まで終わったということにさせていただいてよろしいでしょうか。 【A委員】公が作る温泉施設ということで、昔、ここには毛利の殿様とお姫様の湯があったようですが、温浴施設の内装に何気ない湯田温泉の昔の風情を感じられるような、そういったものが体感できたらいいなと思っています。 【鵜会長】重要な御指摘があったと思うのですが、地域の歴史に密着したような施設にしていただきたいという、そういうことだと思うのですが、是非、御検討いただければと思います。皆さんの方からも何かありますか。よろしいでしょうか。それでは3の議事については以上で終わりたいと思います。続いて今後の日程について事務局説明をお願いできますでしょうか。 4　今後の日程 【事務局】第４回の会議は11月を予定しております。開催日の方を皆様と調整させていただきまして、開催日が決まりましたら改めて御連絡いたしますので、よろしくお願いをいたします。以上です。 【鵜会長】次回は11月の予定で、この資料によりますと、基本設計概要版案を提示するということになっていますので、今日の意見を踏まえて作業を進めていただければと思います。それでは本日の議事については以上ですが、全体を通して、皆さんの方から何かコメント等はありませんか。無ければ、これを持ちまして、本日の会議は終了させていただきたいと思います。事務局にお返しします。 5　閉会 【事務局】皆様方には長時間にわたり、御協議を賜りまして、どうもありがとうございました。以上で、第3回の多世代交流・健康増進拠点施設整備の専門会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。お疲れ様でした。
会議資料	次第 資料1　多世代交流・健康増進拠点施設【（仮称）湯田温泉パーク】について 資料2　配置ゾーニング等について

	資料3　委員名簿 資料4　配席図 資料5「多世代交流･健康増進拠点施設整備専門会議設置要綱」